

**広報**
ぬくもり

第6号

住んでみたい四絡
住んでよかった四絡
～認めあい支えあい
やさしさあふれるまちづくり～



◆ 発行者 四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会（四絡コミュニティセンター内）

人権が尊重される やさしさあふれる まちづくりをめざして

四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会

会長 安達清志

四絡地区の皆様には令和5、6年度の2カ年にわたる本事業の推進にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。また6つの専門部、約60名の指定事業推進委員会の皆様、そして各専門部の部長を中心に構成される幹事会の皆さまには指定前年度の令和4年度からこれまでの間、本事業推進をお支えいただきました。心から感謝申し上げます。

この事業は自治協会をはじめ各種団体、社会教育関係団体、おやま、わたりはし、おおつか各保育園、四絡幼稚園、小中学校、コミュニティセンターが連携し、またJA四絡支店、四絡商工振興会にご協力をいただいて実施をしてきました。活動の中心である研修会の開催は2年間に60回以上、参加者総数は2,000名を超え、このことは取組の大きな成果であると思っています。地域に公開された保育や授業研究のほか、広報紙「ぬくもり」、コミュニティセンターだより「広報よつがね」、ホームページや各園・学校のお便り等を通して、広く地域住民の方に人権・同和教育について考えていただく機会を設けたことも成果の一つではないかと思っています。

2年間の活動報告は82ページの報告書にま

とめ、令和6年10月19日（土）出雲三中を会場に発表会を開催して行いました。来賓の出雲市副市長井上夏穂里様、出雲市教育長杉谷学様をはじめ、市内各地から250人を超えるたくさんの方に来場いただき、住民意識調査をもとに地域と学校が連携して取り組んだ四絡地区の実践を高く評価していただきました。

発表会の開催にあたり嬉しかったことは、前日の準備と当日の運営のために、2日間合わせて200名以上の方がボランティアとして参加してくださったことです。来場された方は会場のボランティアの多さにびっくりしておられました。「さすが四絡、すごいですね。」という声を耳にしてとても誇らしい気持ちになりました。皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

この2年間、私は多くの方とお話をさせていただく機会を得ました。いつも感じることは活動テーマである「認めあい支えあい やさしさあふれるまちづくり」は、すでに四絡地区の皆さんの心の中にしっかり根付いているということです。指定事業はこの3月で終了しますが、この事業をきっかけとし、これからも「人権が尊重されるやさしさあふれるまちづくり」を皆様とともにめざしていきたいと思っています。ご協力をいただきましたすべての四絡地区の皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

出雲市同和教育研究指定事業を終えるにあたって

出雲市総務部人権同和政策課

同和教育啓発指導員 園山 哲男

四絡地区人権・同和教育推進協議会におかれましては、この2年間、地域の総力をあげて研究推進に取り組んでこられました。指定前年度には研究推進組織を立ち上げるとともに住民人権意識調査を実施し、四絡地区の人権に関わる諸課題を把握されました。そして、それらの解決に向け活動テーマを「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡 ～認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり～」と定め、「人権が尊重される真に住みよい町づくり」を目指し、諸団体と連携しながら地域ぐるみで精力的に研究活動を推進されました。

研究推進組織の心臓部である幹事会は、毎月開催され、事業推進に関わる重要事項についての話し合いを重ねてこられました。幹事の皆さまは、自ら研修会を企画されたり、さまざまな方面に研修会の開催や事業への参画等の働きかけをされたりしました。このような熱意のある動きがあったからこそ、各方面で多くの教育・啓発活動が実現していったと考えています。特筆すべきは、2年次当初に、全ての自治協会総会で自治委員の研修が実現したことです。加えて、地区住民研修では、研修テーマを変えながら、2年間で計12回に及ぶ全ての住民を対象とした研修会を実施されました。また、高齢者部や連合福寿会での研修会、専門部の皆さまを対象としたDVDミニ研修会、各種団体並びに事業所での研修会、文化祭等のイベントでの啓発DVD上映会など、さまざまな機会を捉えてたくさんの教育・啓発活動を実施されました。そして、地区全域への広報・啓発を進めるために、広報紙「ぬくもり」を発行されました。これらの取組は、広い四絡地区全体での人権尊重への関心の高まり、人権意識の向上に大きく寄与するものであったと思います。

更に、四絡地区では、研究指定の重要なポイ

ントである「同和問題の解決に向けた研修」を重視した取組を積極的に展開してこられました。具体的には、推進委員を対象とした研修、全ての地区住民を対象とした研修、差別の現実学ぶ視察研修などです。また、四絡地区の課題の一つであった若い世代での同和問題研修を、学校教育部とのタイアップによって実現されました。このような実践は、高く評価すべきものであると考えています。

学校教育部では、保・幼・小・中の連携をもとに、地域・家庭との連携を念頭においたさまざまな活動を実施されました。そして、若い世代の研修や自治会未加入者の研修など、地域のニーズにも応える形で、推進委員会と歩みを共にされたことは、素晴らしい「連携・啓発」の取組であったと思います。

また四絡地区では、「多文化共生社会の実現」に関わる取組にも力を入れてこられました。住民が参加しやすいように地区の諸行事に合わせて実施するなど、工夫された「多文化共生ひろば」を定期的に開催されました。このことは、出雲市全体の「多文化共生社会の実現」を目指す取組のモデルともなる素晴らしい実践でありました。

さらに、研究指定は3月末で終了となりますが、幹事の皆さまが繰り返し仰ってきた「この2年間は、5年・10年先を見越して、この活動を続けていくきっかけ作りの2年」という心強いお言葉のとおり、研究指定終了後も、無理のないところでの取組の継続を期待しております。

最後に、研究指定事業推進委員会の皆さまをはじめ、本研究指定事業をお支えいただきました四絡地区の全ての皆さまに対し、心からのお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



発表会に参加された方々の声

10月19日の四絡地区人権・同和教育研究発表会では、2年間の四絡の取組についての実践発表、同和教育啓発指導員 園山哲男さんによる指導・講評と記念講演を行いました。講演講師は、鳥取県で人権に関わる活動を積極的に行っておられる高田美樹さんに「出会いを学びに」という演題でお話をいただきました。高田さんの部落差別と関わる体験や考えを聞き、「部落差別は今でもある」ことを多くの方に知っていただき、また、差別がつくり出す「不幸」について考えてもらうことができたと考えています。発表会に参加された方の感想を一部紹介します。

実践発表の感想から

- ・テーマづくりまでの過程が紹介され、めざす姿が示されており感心しました。地域や職場、学校、園が共に研究実践されてきたことがよく分かる発表でした。
- ・外国人向けアンケートの実施は非常によいと思います。各学校、幼稚園、保育園の取組は非常に良かったです。事業の成果を数値的に見て取れるものがほしかったです。
- ・地域住民や外国人の住民を巻き込んだ取組は大変参考になります。多文化共生ひろばでは、外国人が日本を知る、日本人も外国のことを知る相互理解につながるよい活動だと感じました。出雲市全域にも広がるといいと思いました。
- ・「多文化共生ひろば」は、参加しやすいイベントという形で実施されているのがとても良かったです。人権問題は避けられがちな傾向があるため、「楽しそう」という入り口が素晴らしいと思いました。
- ・四絡地区の特色を生かした活動ですばらしかったです。6年生の修学旅行の説明会の場を（同和問題学習の説明に）活用されているのが目からうろこでした。たくさんの方に研修を受けてもらえる工夫がされているなと思いました。



講演の感想から



- ・差別の本当の怖さは、「人と人を分断すること」。この事が実感できた話でした。もっと多くの方が高田さんの話を聞いてほしいと思いました。
- ・自分の家族の体験を堂々と話せる勇氣はすごいなと思いました。「差別をする人もされる人もつらい。だれも得をしない。」という考えには納得できました。差別は誰のせいでもなく、自分自身の思い方、考え方だと思いました。
- ・差別した側が一番不幸だったのではないかという考えは（今まで）なかったです。世の中が悪い、そのせいで差別された人は苦しんでいると思っていたけれど、関係を断たれたことで多くの幸せの可能性を失った差別した側の20年を考えたら、これ以上の不幸はないと思いました。今まで考えなかった差別した側の人生のことを考えさせられました。
- ・差別をされた人、する人、どちらもつらい思いをする、いいことは一つもないと改めて思いました。「差別に勝つ方法は、自分らしく生きること、自分の人生に納得してキラキラわくわく生きること」という言葉が心に残りました。
- ・人権って自分の生き方についての気づきなんだと実感させられました。

その他（運営等と関わって）

- ・雨の中の運営、ご苦労も多かったと思いますが、とても気持ちよく迎えてもらいました。皆さんのお声がけがとても優しく丁寧でした。まさに人権を大事にされていると思いました。
- ・スタッフの多さにびっくりしました。行き届いた会であったと思います。



同和教育研究指定事業の取組等について 《各部長のコメント》

地域 研修部

四絡地区を2～3グループに分け、コミュニティセンターを会場に地区別研修を実施しました。また各種団体や専門部、各種サークル、地区内の職場など多くの団体やグループでも研修を実施していただきました。おかげで2年間に地域、学校等を合わせて60回以上、2,000名を超える方に研修に参加していただきました。内容は、住民アンケートで取り上げられた人権問題についてもしっかり考えてもらえるものとし、方々でも講義形式だけでなく、ミニ動画やDVDを視聴して意見交換をするビデオフォーラムを取り入れるなど、多くの方に参加していただけるよう工夫をしてきました。
(部長 山代裕始)

調査 研究部

令和4年11月に「人権に関する意識調査」を2種類（四絡版と外国人向け）実施しました。集計には、9名の部員の他、推進委員会役員、コミュニティセンターの青少年部、女性部の皆さんに協力を得ることができ、本事業の活動の方向性を検討するための資料づくりを行うことができました。地区別研修が始まってからはアンケートの集計を分担して行い、研修の評価をするとともに内容改善に生かしました。また、令和6年7月から9月には、取組のまとめとなる研究実施報告書の編集・校正を行いました。
(部長 尾崎一夫)

学校 教育部

おおつか保育園・おやま保育園・わたりはし保育園・四絡幼稚園ならびに小中学校の園長や校長をはじめ、職員の皆さんにご理解ご協力を頂き、活動を進めることができました。本事業を通し、改めて私たち自身の姿勢や行動が乳幼児や児童生徒に大きく影響していると感じ、今後も各所で繰り返し研修を行い、一人一人の人権意識を高め、活動に鋭意努力していきたいと思えます。そして、「預けてみたい、預けてよかった」となれば幸いです。
最後になりましたが、ご理解ご協力いただいた地域の皆様、保護者の皆様にも心よりお礼申し上げます。
(部長 本間 博)

大会 運営部

発表会の運営を担当することとなり、不安と困惑からのスタートとなりました。他地区で開催された発表会を参考に検討した結果、会場は施設規模が充実した第三中学校に決定し、関係者のご理解を得て事前調査を2回実施しました。過年度の開催地区は、コロナ禍もあり参加者は多くありませんでしたが、今回は300名程度を想定し、特に駐車場に配慮しました。当日は天候不順で駐車場担当の交対協関係者には辛い1日でしたが、準備と当日合わせて約200名の関係者のご協力により整然とした立派な大会運営ができ感謝しています。
(部長 濱村 稔)

広報 啓発部

関係機関や団体・学校等の皆さまの協力を得て、広報「ぬくもり」の発行、人権標語の募集・掲示、横断幕の設置等を行い、人権・同和教育の推進と人権意識の向上に取り組んできました。皆さまのご理解・ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

今後とも、私たち一人ひとりが同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しい知識と理解を深めるとともに、誰もが人権を尊重し『やさしさあふれる温かいまちづくり』の取組を地域の隅々に広げていきたいと思います。
(部長 岡 賢治)